

都道府県金融広報委員会 事務局員の活動紹介

楽しく学ぶ！ お金の話

滋賀県金融広報委員会
秋山 ひろみ

私の仕事は、学校や生涯学習の場などで、子どもたちや一般の方々が金融について学ぶきっかけを作ることです。「難しいと思われがちな金融を楽しく、わかりやすく！」をモットーに、多くの方に興味を持ってもらうための企画を日々考えて

います。

ある時「千両蜜柑」という古典落語を聴く機会がありました。夏の蜜柑一つについた値段が千両、買いに行かされた番頭がその蜜柑の中身三袋を持って逐電※するとう断です。私は笑いながら、落語には暮らしに身近なお金にまつわる話が面白おかしく表現され、気付かないうちに自分とお金との付き合い方を考えるきっかけを与えてくれると感じました。

そこで「古典に学ぶ！お金の話」というイベントを企画。落語家さん

の落語一席に加え、生活経済ジャーナリストの先生による解説と金融トラブルについてのお話を聞くという内容の講座を開催しました。会場は笑いあり、うなずきあり。そして何より、今まで私たちの活動をご存じなかった方々にたくさんご参加いただきました。皆さんからの「また勉強させて」という声は最高のご褒美になりました。

私もこの仕事がつきかけとなり、昨年ファイナンシャル・プランナーの資格を取得しました。そのことにより、新しい発見や出会いの機会が増



左から落語家の桂かい枝さん、生活経済ジャーナリストのいちのせ先生、秋山さん

仕事体験から 学ぶもの

高知県金融広報委員会
茂井 ひろみ

仕事体験のはじまり、はじまり。昨年度より全国各地で開催している「金融教育フェスティバル」(平成17年度〜20年度は東京のみで開催)この夏、待望の高知開催が実現しました。

当日、私が担当したのは、日本銀行の仕事を経験するコーナーの進

行役。なかでもコインの鑑査(枚数確認と選別)や破れたお札の引換は、私が実際に携わったことのある仕事で、自然と力が入りました。

初めは緊張気味の子もいましたが、いざ体験が始まると目をキラキラ輝かせ、「ちゃんと(土佐弁で)とても」の意味)熱心に取り組んでいました。

時間にして20分、あつという間に過ぎましたが、お給料袋を手にした子どもたちの顔を見て、私は確信しました。「お金はどこから来るのか」、「お金のありがたみ」など、一人ひとりが考えるよききっかけにな

たなど。大げさかもしれませんが、

仕事体験をやり遂げた子どもたちは、それほど頼もしく見えたのです。会場の保護者からも「お金や仕事について、子どもにどう説明すればいいのか悩んでいたが、よいヒントももらった」といった声が寄せられました。

日本では、子どもの前でお金の話をすることをタブー視する傾向があります。人口当たりの自己破産件数が全国でもワーストクラスの当県では、とりわけ子どもたちからの金融教育は欠かせないものだと思えます。

当委員会では、オリジナルの紙芝居やゲームを使いながら、子ども

たちの年齢に応じて楽しく学べるメニューを用意しています。ぜひ、皆さんも「はじめの一步」を踏み出してみませんか。

えた気がします。これからも学びの楽しさと大切さを感じていただける企画に私も楽しく取り組んでいきたいと思えます。

※行方をくらまず、逃げるの意

